

パネラー紹介

ジャン=マックス・ゴディリエール氏 (Jean-Max Gaudillière)

フランソワーズ・ダヴォンヌ女史 (Françoise Davoine)

両氏ともパリ社会科学高等研究院 (Ecole des Hautes Etudes en Sciences Sociales) 助教授。ラカン派精神分析学者。ゼミナール“狂気と社会的紐帶”を主催——題目が暗示しているように精神分析と社会学が交差する地点で独自の研究を展開している。特に近年は日本を含む非西欧文化圏の伝統的な知に関心を寄せているが、それは精神分析的実践と親しく共鳴し合うさまざまな〈技術〉が存在する、との確信による。両氏が土居健郎氏の『甘えの構造』に共感したのも、両氏のそのような開かれた態度があつてのことである。

井筒俊彦 (いづつ としひこ)

1914年生まれ。慶應義塾大学卒。慶應義塾大学文学部教授、マッギル大学 (カナダ) 教授、イラン王立哲学アカデミー教授を経て、現在は慶應義塾大学名誉教授、日本学士院会員。専攻は言語哲学・東洋思想。著書は、『イスラーム思想史』『イスラーム哲学の原像』『イスラーム文化』『意識と本質』; Toward a Philosophy of Zen Buddhism ; Sufism and Taoism.

河合隼雄 (かわい はやお)

1928年生まれ。京都大学卒。カリフォルニア大学、ユング研究所などに留学。現在は京都大学教育学部教授。専攻は臨床心理学。著書は、『ユング心理学入門』『箱庭療法入門』『コンプレックス』『影の現象学』『母性社会日本の病理』『無意識の構造』『昔話の深層』『無意識の構造』『昔話と日本人の心』。

木村 敏 (きむら びん)

1931年生まれ。京都大学卒。名古屋市立大学医学部教授。専攻は精神病理学・内因性精神病。著書『自覚の精神病理』『人と人との間—精神病理学的日本論—』『異常の構造』『分裂病の現象学』『時間と自己』論文・「精神分裂病症状の背後にあるもの」「うつ病と罪責体験」「祈禱性感応精神病の一家族例—精神医学的考察」。

シンポジウム 「日本的心・フランスの心」 ご案内

河合文化教育懇談会

〒151 東京都渋谷区上原3-28-18
河合塾駒場校内 TEL.03-465-3581

中川久定（なかがわ ひさやす）

1931年生まれ。京都大学卒。京都大学文学部教授。専攻はフランス文学。著書は、『自伝の文学—ルソーとスタンダール』『ディドロの「セネカ論」』『甦るルソー—深層の読解』：Diderot, Essai sur Seneq 2vol.（『ディドロ「セネカ論」』初版・第2版比較テクスト）

土居健郎 (どい たけお)

1920年生まれ。東京大学医学部卒。聖路加国際病院神経科、アメリカ国立精神衛生研究所を経て、現在は国立精神衛生研究所所長。専攻は精神医学。著書は『精神分析と精神病理』、『精神療法と精神分析』、『甘えの構造』。

山折哲雄 (やまおり てつお)

1931年生まれ。東北大学印度哲学科卒。東北大学文学部助教授を経て、現在は国立歴史民俗博物館教授。専攻は宗教学・思想史。著書は、『日本佛教思想論序説』『靈と肉』『日本宗教文化の構造と祖型』『日本人の靈魂觀』『日本人の心情』『神と仏—日本人の宗教觀』『神から翁へ』。

湯浅泰雄（ゆあき やすお）

1925年生まれ。東京大学文学部卒。大阪大学文学部教授を経て、現在は筑波大学教授。専攻は日本思想史・哲学・宗教心理学。著書は、『神々の誕生』『近代日本の哲学と実存思想』『身体—東洋的身心論の試み』『ユングとキリスト教』『ユングとヨーローパ精神』『和辻哲郎』。

(50章順)

20世紀末を迎えるとしている今日、〈地球社会〉と呼ぶにふさわしい社会の国際化が進展しています。人類文明において西欧の果たした役割りには非常に大きいものがあります。しかし、欧米を中心とする世界観が、非西欧世界との接触に際してさまざまな摩擦を引きおこしていることも事実です。〈地球社会〉のあるべき姿を考えるために、この〈社会〉を構成する市民の〈心〉を読みとり理解しなければなりません。

このたび、フランスのラカン派精神分析学者ジャン＝マックス・ゴディリエール夫妻が来日するのを機会に、日仏両国の学者による「心」をテーマにしたシンポジウムを開催します。夫妻は土居健郎氏の著書「甘えの構造」を高く評価し、その書評の一部はフランスの雑誌「クリティック」に発表されております。又日本でも邦訳の全文が近く刊行される予定です（岩波書店『思想』8月号）。

シンポジウム「日本の心・フランスの心」は、
「甘え」の日仏比較を通して西欧と日本の「心」
の特質を探り、現代人の置かれている精神状況
を明らかにします。さらに、日本人の「心」を深層
において規定し、東洋思想の現代における可能
性を求めて討議します。

教育指導や研究活動に携わる皆様にとって、このシンポジウムがひとつの指針になればと願う次第です。

昭和59年7月

河合文化教育懇談会
座長 河合斌人

日 時 1984年8月3日(金) 午後1:30~午後5:00
場 所 日本プレスセンター (10階会議場)
東京・日比谷

テーマ 「日本の心・フランスの心」 —フランス精神分析学者との対話—

進 行

I 基調報告

ジャン＝マックス・ゴディエール氏(パリ社会科学高等研究院助教授)
土居 健郎氏(国立精神衛生研究所所長)
河合 隼雄氏(京都大学教育学部教授)

II 自由討論

井筒 俊彦氏（日本学士院会員）

河合 集雄

木村 敏 氏（名古屋市立大学医学部教授）

ジャン＝マックス・ゴディリエール氏

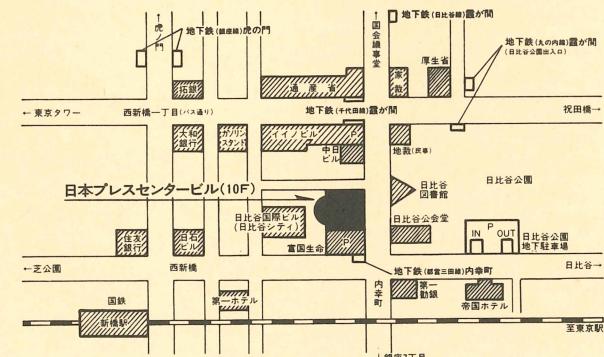
土居 健郎氏

フランソワーズ・ダヴォワンヌ女史(パリ社会科学高等研究院助教授)
山折 哲雄氏(国立歴史民俗博物館教授)

湯浅 泰雄氏(筑波大学教授)

(司会) 中川 久定氏(京都大学文学部教授)
吉田 城 氏(京都大学助教授)
水林 競 氏(国際基督教大学講師)

プレスセンターホール案内図



日仏文化シンポジウム 日本的心・フランスの心

主催：河合文化教育懇談会

日時：'84年8月3日

場所：日本プレスセンター（東京）

20世紀末を迎えるとしている今日、〈地球社会〉と呼ぶに相応しい社会の国際化が進展しています。人類文明において西欧の果たした役割には非常に大きいものがあります。しかし、欧米を中心とする世界観が、非欧米世界との接触に際してさまざまな摩擦を引き起こしていることも事実です。〈地球社会〉の有るべき姿を考えるためにには、この〈社会〉を構成する市民の〈心〉を読み取り理解しなければなりません。

この度、フランスのラカン派精神分析学者ジャン-マックス・ゴディリエール夫妻が来日するのを機会に、日仏両国の学者による〈心〉をテーマにしたシンポジウムを開催します。夫妻は土居健郎氏の著書「甘えの構造」を高く評価し、その書評の一部はフランスの雑誌「クリティック」に発表されております。また日本でも邦訳の全文が近く刊行される予定です（岩波書店「思想」8月号）。

シンポジウム〈日本的心・フランスの心〉は、〈甘え〉の日仏比較を通して西欧と日本の〈心〉の特質を探り、現代人の置かれている精神状況を明らかにします。更に、日本人の〈心〉を深層において規定し、東洋思想の現代における可能性を求めて討議します。
教育指導や研究活動に携わる皆様にとって、このシンポジウムが一つの指針になればと願う次第です。

1984年7月 河合文化教育懇談会 座長 河合斌人

——上記のような呼びかけで、河合文化教育研究所の前身・河合文化教育懇談会による初のシンポジウムが開催され、活発な議論が展開された。

〈基調報告〉

J・M・ゴディリエール（パリ社会科学高等研究所教授）

土居健郎（国立精神衛生研究所所長）

河合隼雄（京都大学教授）

〈自由討論〉

J・M・ゴディリエール

F・ダヴォワンヌ（パリ社会科学高等研究所教授）

井筒俊彦（日本学士院会員）

木村 敏（名古屋市立大学教授）

山折哲雄（国立歴史民俗博物館教授）

湯浅泰雄（筑波大学教授）

河合隼雄

土居健郎

（司会）中川久定（京都大学教授）